

第8回福山市学校教育環境検討委員会の議事概要

1 日 時 2014年(平成26年)8月28日(木) 10:00~12:00

2 委 員

◎委員長, ○副委員長

名 前	役職名	名 前	役職名
◎秋川陽一	福山市立大学教育学部教授	森美智代	福山市立大学教育学部准教授
○永井純子(欠)	福山平成大学福祉健康学部教授	村上勝士	福山市自治会連合会会長
小野明人	福山市民生・児童委員協議会会長	藤井春勝	福山市公民館長会会長
平田誠治	福山市PTA連合会会長	藤原理絵	福山市PTA連合会副会長
西本紀子	福山市PTA連合会会計	岡本康成	福山市子ども会育成協議会会長
荒木一夫	福山市公立小学校長会会長	川崎富男	福山市公立中学校長会会長
松本茂太郎(欠)	福山商工会議所副会頭	喜多村祐輔	福山青年会議所理事長
藤本和士	連合広島福山地域協議会事務局長		

3 概 要

(1) 教育長挨拶

(2) 事務局報告

第7回検討委員会の議事概要

(3) 審議事項

I 望ましい学校教育環境のあり方について(答申)【案】

II 中間まとめ 児童生徒の健全育成のための教育環境の整備について

III 資料編【案】

【意見】

《答申のまとめ方について》

- ・教育効果を高めるためには、集団教育を進める上で必要な子どもの数を確保する必要がある。子どもの数が減る中で、学校間の統合についても触れておく必要があり、具体については、市の方でしっかり検討してもらいたいと思う。
- ・学校の環境整備については、こうした検討と併せて、重点的かつ効果的な取組を進めてもらいたい。
- ・検討委員会として、望ましい学校教育環境について、優先すべき事項は強調して記載することとしてはどうか。優先すべき事項は、健全育成のための中学校給食の完全実施と空調整備であると考えている。
- ・優先すべき事項を考える際、今日的課題として、人口減少とともに自然環境の変化の要因が大きい。学校は、公の場所であり、子ども達や教職員の安全を守らなければならない場所である。費用や運営面も考えなければならないが、まずは安全面から考えるべきだと思う。

《児童生徒の健全育成のための教育環境の整備について》

◆子どもにとっての学校教育環境

- ・子どもにとって一番大切なことは、自ら考えることであり、大人が望ましいと考えた環境が「最適」だとは限らない。「最適」と「快適」は、きちんと分けて考える必要がある。「最適」な環境にするには、意図があるはずであり、我々が言う「快適」が過保護ではなく、子どもにとって良いことであると説明できなければならない。
- ・「一方…」以下の書きぶりが前段との文章の流れの中で、唐突でひっかかりを感じる。

◆空調設備について

- ・今日的課題として、地球温暖化による自然環境の変化があると思う。環境整備の中では、空調（冷房）整備が、場合によっては命にも関わることから優先順位が高く、答申の中で、もっと強調して書くべきではないか。

◆洋式トイレについて

- ・バリアフリーの観点から、また、学校が避難場所となることから、トイレには補助バーが必要である。

《附帯意見として記載する事項》

◆冷水機の設置

- ・夏場の暑さに鑑み、中学校において、現在PTA等が設置している冷水機が増設されることを必要な環境整備に加える。

◆災害時の避難場所としての学校施設

- ・学校が災害時の避難場所であり、子ども達だけのための施設ではないという観点から環境整備を考える必要がある。

◆特別支援教育と小中一貫教育

- ・小中一貫教育の中で、幼稚園等の就学前から小学校、中学校と、教育内容を連続的に捉えて子どもを育てることができる。一貫教育の中でのインクルーシブ教育など効果的な教育を行うためには、ユニバーサル化の視点で施設設備を考える必要がある。

◆その他

- ・環境整備を行うに当たっては、財政上、あれもこれもということにはならないため、今後の児童生徒数の推計や望ましい学校規模を踏まえた検討が必要である。

【まとめ】

- 望ましい学校教育環境について、優先すべき事項として、中学校給食の完全実施と空調設備の整備を強調して記載することとする。
- 諮問事項3の『児童生徒の健全育成のための教育環境の整備』について、「子どもにとって学校での教育環境は、必ずしも快適であることが最適とは限らない」の記述については、再検討する。
- 附帯意見として、災害時の避難場所としての学校施設、特別支援教育と小中一貫教育の観点からの意見や、冷水機の増設の必要性を記載することとする。
- 次回は、答申案についてさらに精査する。